

OTOGAWA

愛知県岡崎市の乙川リバーフロント地区では、2015年から主要回遊動線「QRUWA(くるわ)」を中心に、豊富な公共空間を活用した複数の社会実験を通して、公民連携プロジェクトを立ち上げ「QRUWA戦略」としてエリアの再生に取り組んでいます。

QRUWA 

自分たちの
まちが
できるまで

GRAND DESIGN



CONTENTS

- 01 PROJECT SUMMARY | 2022年度QRUWA戦略のつくりかた
- 02 QURUWA PROJECT-4 | おくがわエリアのまちづくり
- 03 QURUWA PROJECT-5 | 龍田公園・龍田公園持主・駐車場持主と管理開始 | NEKKO OKAZAKI トーナメント
- 04 RELATED PROJECT | QURUWA トーナメントの開催
- 05 RELATED PROJECT | QURUWA トーナメントの開催
- 06 RELATED PROJECT | QURUWA トーナメントの開催
- 07 RELATED PROJECT | QURUWA トーナメントの開催
- 08 RELATED PROJECT | QURUWA トーナメントの開催
- 09 RELATED PROJECT | QURUWA トーナメントの開催
- 10 RELATED PROJECT | 事業リノベーションスクール
- 11 QURUWA PROJECT-7 | トーナメントの開催
- 12 RELATED PROJECT | 乙川の脱炭素と岡崎城下から始まる、省エネ・省エネ・省エネのまちづくり
- 13 SYMPOSIUM | QURUWA 近未来を考える
- 14 RELATED PROJECT | QURUWA 近未来
- 15 RELATED PROJECT | QURUWA 近未来
- 16 CONFERENCE | 2022年度トナメント開催

躍進する
自治会主体の動き
乙川リバーフロント地区の
公民連携まちづくり
2022年度、8年目の取り組みを収録。

- 10 RELATED PROJECT | 事業リノベーションスクール
- 11 QURUWA PROJECT-7 | トーナメントの開催
- 12 RELATED PROJECT | 乙川の脱炭素と岡崎城下から始まる、省エネ・省エネ・省エネのまちづくり
- 13 SYMPOSIUM | QURUWA 近未来を考える
- 14 RELATED PROJECT | QURUWA 近未来
- 15 RELATED PROJECT | QURUWA 近未来
- 16 CONFERENCE | 2022年度トナメント開催

東岡崎駅エリア編

Vol.

10

プロジェクトサマリー 2022年度 QURUWAの まちづくり

2015年からはじまる乙川リバーフロント地区のまちづくり8年目となる2022年度。2020年から続く新型コロナウイルスの感染拡大は、昨年2021年度よりは落ち着いてきましたが、まだまだイベント主催者にとっては難しい判断が強いられる一年となりました。また、計画が一時凍結となっていた、太陽の城跡地におけるホテル・コンベンションの整備に関する協議が再開されたものの、優先交渉権者との協議は中止に。

そんな厳しい状況の中でも、QURUWA7町・広域連合会を中心とした地域の動きが活発になる一年でした。実働部隊である次世代の

会が多様な取り組みを進め、任意団体のままではできなかったことを実現するためのまちづくり会社「株式会社Q-NEXT」の発足もありました。

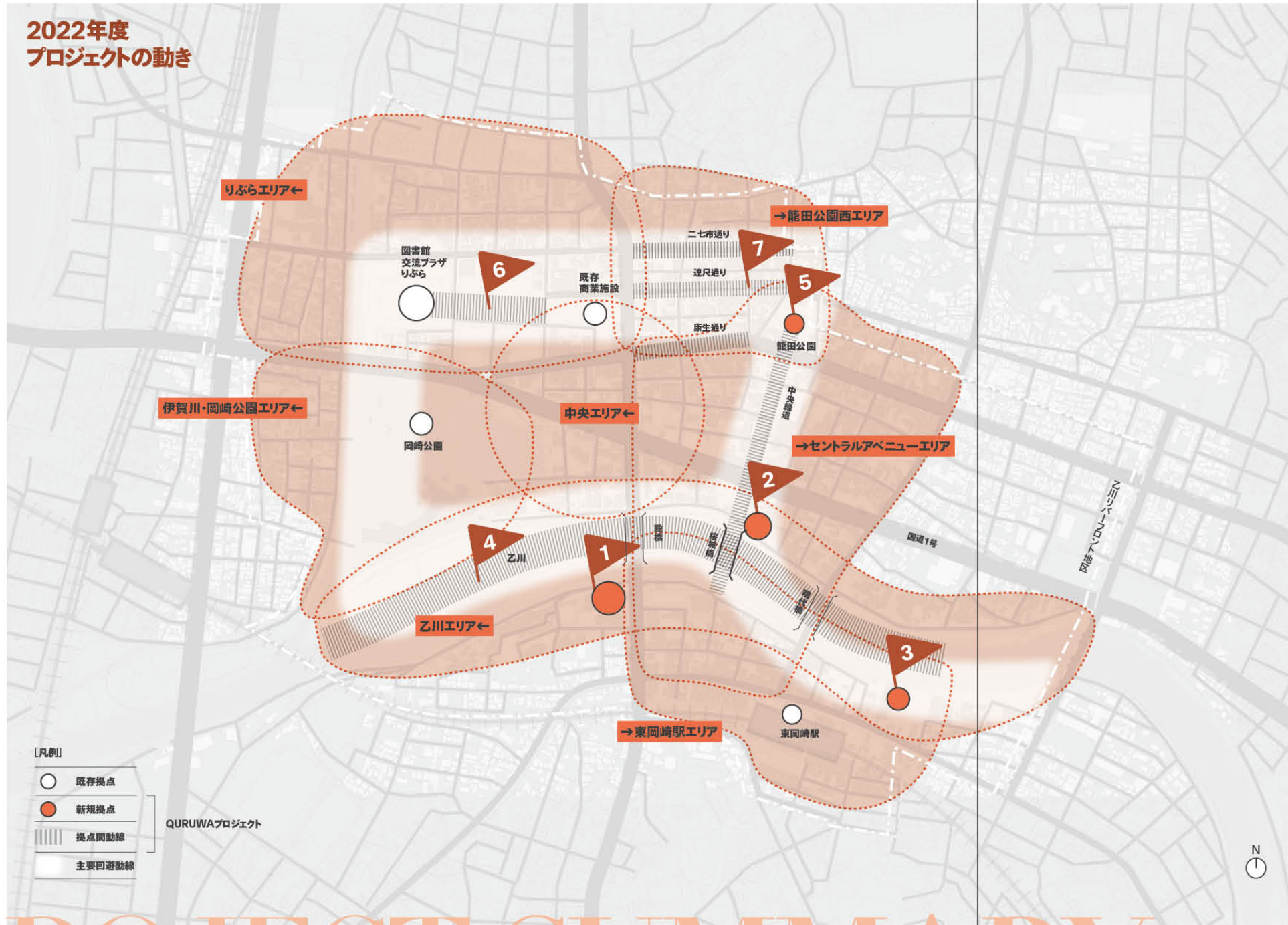
『Log』が今号で第10号を迎えましたが、これからも進み続けるQURUWAの公民連携による取り組みにご注目ください。

- 1 QURUWAプロジェクト1
ホテル・コンベンションの整備・運営
- 2 QURUWAプロジェクト2
桜城橋橋上広場・橋詰広場の整備・運営
- 3 QURUWAプロジェクト3
東岡崎駅周辺の整備・運営
- 4 QURUWAプロジェクト4
乙川のかわまちづくり
- 5 QURUWAプロジェクト5
龍田公園・中央緑道の整備・運営
- 6 QURUWAプロジェクト6
りぶら暫定駐車場の活用
- 7 QURUWAプロジェクト7
道路空間の運営(康生・連尺・二七市通)



乙川リバーライフプロジェクトのようす

2022年度 プロジェクトの動き



PROJECT SUMMARY

QURUWAプロジェクト-4 おとがわ エリアビジョン 更新

QURUWA戦略に定める乙川エリアの目指す姿や、ビジョンの実現に向け乙川エリアで実施するプロジェクト、マネジメント体制等を示し、将来の活用イメージを共有する、「おとがわエリアビジョン」を更新しました。

今回の更新では“生活者も含めた「私の川」になるようなビジョンへ”という更新コンセプトをきっかけ、エリアビジョン全体の構成整理、乙川エリアの基本情報の拡充、民間プレイヤーのみならず行政が実施するプロジェクトを新たに掲載しました。また、ビジョンの実現に向け、次回の更新時まで実施する具体的なアクションプランを定めました。

エリアビジョンの更新に際して、乙川を実際に



ワークショップのようす

活用している民間プレイヤー（16事業者、21プロジェクト）や乙川エリアに関わる行政担当課（8課）に個別ヒアリングを実施し、それぞれのプロジェクトの現状やビジョンの実現に向けて自身の事業を通してできることなどをうかがいました。さらには、民間プレイヤー、地域住民、行政関係者を対象にしたビジョンワークショップ計3回（11月、12月、2月）を開催し、参加者それぞれが抱く、乙川エリアへの思いや課題などを共有しながら、エリアビジョンにかかげられた「自然と都市が交わる暮らし」を実現するために必要な具体アクションを考えました。その後地域住民の方々に声かけし、エリアビジョンのお披露目会も開催しました。

本編では、乙川エリアの将来像である「自然と



プレイヤーヒアリングのようす

都市が交わる暮らし」をより身近に感じてもらう、その実現に向けた動きがより具体的になるように、将来像を6つのレイヤー（自然・環境、風景、特別な日の乙川、いつもの乙川、コミュニティ、周辺エリアとのつながり）に分類し、それぞれのレイヤーごとにビジョンを実現するための具体アクションを掲載しています。

また、民間プレイヤーや行政が乙川エリアで実施するプロジェクトの内容や、それぞれの成果や課題、短期・中期・長期での目標を掲載しています。乙川エリアでプロジェクトを実施する方にとっては今後の活動指針になり、生活者にとっては乙川エリアの「今」を知るとともに未来について考える、そんなきっかけになってほしいという思いが込められたエリアビジョンです。

QURUWAプロジェクト-5 籠田公園/ 籠田公園 地下駐車場 指定管理開始

ホームックス・三菱地所・三菱地所パークス共同体からなる指定管理者による、籠田公園の指定管理が開始されました。「籠田公園利用ガイドブック」、指定管理者による籠田公園のウェブサイトを以下のQRコードから。

籠田公園ウェブサイト



籠田公園地域みらい勉強会



QURUWAプロジェクト-5 NEKKO OKAZAKI オープン

2022年7月22日にオープンしたローカル複合施設です。「暮らしの充実のきっかけづくり」をコンセプトに、誰もが入りやすい公園のような場所を目指しています。

施設の中には、ベーカリーとコーヒーを提供する「NONOJI」、クラフトビールショップ「Hasta mañana!」が入っており、レンタルスペースとして借りることも可能です。

内装も多くの岡崎の事業者や地域の方が関わり、岡崎市の「根っこ」のように、歴史や価値を大切にしつつ、これからの時代に根付く新しい岡崎をつくるきっかけづくりを体現するような場所です。



お披露目会のようす

関連プロジェクト

QURUWA ブランディング& 情報発信

2021年度の終わりに「QURUWAとわたし」の接点を見つけられるようなQURUWAブランディングサイト「QURUWAと。」を公開し、2022年度はそのコンテンツを充実させていきました。

アクションを起こす人たちをより多く増やすという目的から、QURUWAですでにトライした事業者のみなさんを紹介するインタビュー記事「あの人のトライ」も毎月1人のペースで更新していきました。また、地域の方々と連携し、QURUWAにあるお店を紹介する「QURUWAと探索」も月に3件のペースで更新しました。

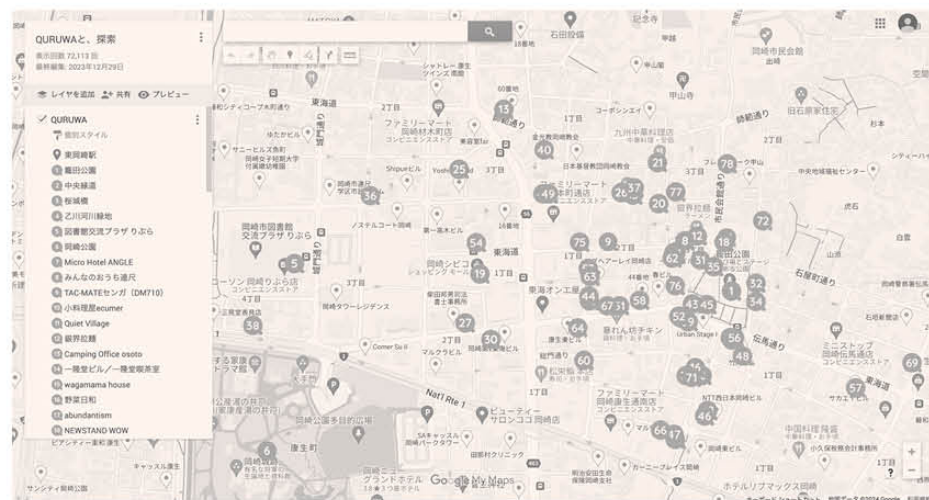
トップページを開くとあらわれる、QURUWAの中での日常的な生活のシーンの撮影、そして「おしらせプロジェクト」も継続。QURUWAボードは引き続き東岡崎駅、りぶらとともに設置し、地域の方々が運営をしてくださっています。プロジェクトを1年ごとに振り返りできるように刊行している本誌「Log」も継続して刊行していきます。

こうした情報発信の取り組みは、QURUWAのローカルで活動するメンバーとともにチームをつくって進めています。閲覧いただくみなさんの反応を見ながら、ウェブサイト「QURUWAと。」をよりよいものにつくりあげていきます。

ウェブサイト「QURUWAと。」



「あの人のトライ」記事



「QURUWAと探索」記事



「QURUWAと探索」記事



「あの人のトライ」記事



「QURUWAと探索」記事

地域住民が中心となった
コミュニティ活動支援組織

QURUWA7町・ 広域連合会 次世代の会

2021年に発足した次世代の会を中心に、2022年は様々な活動が目まぐるしく取り組まれた1年でした。

1

QURUWA夏祭り2022

昔は地域の交流の機会だった「お祭り」ですが、近年は開催されなくなっていました。QURUWA7町・広域連合会と次世代の会は、「30年前の夏祭りを復活させよう。」という地域の動きもきっかけとなり発足したので、この夏祭りには特別な思いがあります。

当日の会場には子どもたちの元気な姿が見られ、コロナ禍や時代と共に縮小した子ども会の役割も、この夏祭りが受け継いでいるのでした。

これまで籠田公園や中央緑道を中心に活動してきたQURUWA7町・広域連合会ですが、この夏祭りを通して、東岡崎駅やりぶら周辺との横のつながりも広げる機会になりました。

籠田公園夏祭り
8月11日[木/祝] - 14日[日] 18:00 - 21:00
オカ・セボンフェスタ@りぶら東第2駐車場
8月19日[金] - 21日[日] 18:00 - 20:30
みんなでフッショイ!! 桜城橋夏祭り
8月26日[金] - 28日[日] 18:00 - 21:00

主催：QURUWA 夏祭り実行委員会
共催：QURUWA7町・広域連合会、
QURUWA7町・広域連合会 次世代の会

8月11日から28日までの各週末、トータル10日間に及ぶ自治会主催の夏祭りを開催しました。コンセプトは「誰もが参加でき、一人ひとりが輝ける、市民がつくる夏祭り」。地域に昔からお住まいの方、新たに引っ越しをされてきた新住民、老若男女、国際交流を含めた外国人の方々と多様なご参加がありました。

Instagram



籠田公園夏祭り



桜城橋夏祭り



手筒花火



りぶら東第2駐車場



ダンス部の皆さん(桜城橋)

2

高校生まちづくりプロジェクト

様々な人が関わるようになった次世代の会。2022年には、若くエネルギーあふれる高校生との連携がはじまりました。

岡崎市ふくし相談課では2022年度より「高校生まちづくりプロジェクト」を開始。この事業では、地域住民同士のつながりの希薄化による社会的孤立や、高齢化や担い手不足による地域イベントの減少などの地域課題解決に向けた様々な企画を、大人の常識や価値観に捉われない高校生ならではの感性や、新しい視点で企画し、市はその活動を全面的にバックアップします。他市では、地元の素材を使ったスイーツの考案をしたり、仮装をして地域住民と清掃活動を行ったりしています。岡崎市でも、そのような高校生の自由な活動を支援していきます。

2022年から2023年にかけて参加者を募集し、10名を超える高校生のみなさんがプロジェ

クトに参加しました。普段の生活拠点を岡崎に置く高校生がこの事業に関わることで、将来社会人になったとき岡崎に住みたい、まちづくりに関わっていききたい、と思える機会の創出を目指します。

2022年度の成果として、8月11日[木/祝]に籠田公園でQURUWA7町・広域連合会と「QURUWAティーンズフェス」を共同開催し、



高校生や地元住民約200人が参加しました。また、地域のおでかけ情報を発信するウェブサイト「ぼけろーかる」に掲載する記事とリーフレットを作成しました。

Instagram



3

まちづくり会社 「株式会社Q-NEXT」設立

2022年11月1日[火]、まちづくり会社「株式会社Q-NEXT」が設立されました。自治会連合の組織である「QURUWA7町・広域連合会次世代の会」という任意団体では困難な、他団体との連携事業、収益事業をおこない、それを「まち」のために再投資するための法人です。

名称の中の「Q」は活動対象エリア「QURUWA」の「Q」、「NEXT」は以下のルーツや想いから名付けられました。

- 1 | QURUWA 7町・広域連合会次(next)世代の会から派生
- 2 | QURUWAの次(next: 未来)をつくる
- 3 | 未来のために私たちのまた次(next)の世代を大切に育てる

事業内容は、イベントの企画運営、不動産管理やマッチング、福祉分科会・地域福祉に関係する諸団体と連携した福祉事業などです。

代表取締役社長

柏木克友 | 合同会社かしわざ(写真中)

取締役副社長

佐谷繁 | 株式会社宝金堂(写真左)

取締役

筒井健 | 株式会社MSA(写真右)

Q-NEXT設立



任意団体設立



あの人のトライ
柏木さん



4

QURUWAアワード2022

2023年3月13日[月]、次世代の会定例会において「QURUWAアワード2022」が初開催されました。QURUWAアワードとは、QURUWA7町・広域連合会および次世代の会関連の1年間の取組を振り返り、関わった皆さんの労をねぎらうと共に、次の1年の活力を高めることを目的としたものです。

ノミネートされたのは16の取り組みで、果敢なチャレンジ精神で新たな活動領域を開拓した取り組みを称える「新規活動部門」、創造的な発想と行動力で地域の課題解決に寄与した取り組みを称える「課題解決部門」、そして将来のまちの財産となるような魅力創出に貢献した取り組みを称える「魅力創造部門」という3つの部門で表彰されました。

投票の結果選ばれたのが、以下の取り組みでした。

新規活動部門 | ナイスチャレンジ賞

高校生まちづくりプロジェクト

課題解決部門 | クリエイティブソリューション賞

おかすけねっと

魅力創出部門 | フューチャーレガシー賞

景観まちづくり部会(分科会E)発足

アワードについて



No.01 高校生まちづくりプロジェクト



概要

- ・岡崎市在住の高校生有志13名による“地域のつながりを活性化”するプロジェクト。
- ・8/11(祝)に籠田公園で開催された「QURUWAティーンズフェス」では、次世代の会等と連携しながら、企画から運営まで自分たちで実施。
- ・そのほか、まちづくり岡崎と連携した「ぼけろーかる」の取材・記事執筆、「おかぎ若者の語り場」など、積極的に活動を展開。

No.02 おかすけねっと



概要

- ・高齢者のお困りごとの支援を検討する部会から派生した有償ボランティア団体。
- ・東康生出身の理学療法士・柏木さんが一念発起、「介護保険ではサポートできないお困りごと」や「これまで自分でできていたのにできなくなってしまったこと」に対応できるサービスを、地域のつながりをフル活用して創出

No.10 景観まちづくり部会(分科会E)発足



概要

- ・QURUWA地区における公共空間整備がひと段落し、リニューアルされた良質な都市空間を保持しつつ、民間の良好な開発を誘導するための景観まちづくりについて協議を進めている。

関連プロジェクト 事業リノベーション スクール

岡崎市は、かつて賑わいを見せた中心市街地が、希少かつ多様なコンテンツの集積した地区になることを目指しています。そんなQURUWAに、企業のなかでも意欲的に新たな知識を吸収して新規事業に挑戦する「本気の」みなさんが、オープンイノベーションにより多彩なゲストや地域、参加者同士で連携し、自社事業のリノベーション(更新・向上)や新規事業の構築にトライできる、「QURUWA事業リノベーションスクール」(以下「事業リノスク」)を、2022年9月から2023年2月まで、計6回実施しました!

全6回の内容

1回目 | 9月15日[木] | NEKKO OKAZAKI

QURUWAの取り組み説明から事業プレゼン、その後アフタヌーンソサエティ清水義次氏を講師に迎えたレクチャー「まち×企業のイノベーションの必要性」を実施しました。

2回目 | 9月22日[木] | NEKKO OKAZAKI

QURUWA7町・広域連合会次世代の会の佐谷繁氏によるレクチャー「7町広域連合会、次世代の会の動き」のあと、まち歩きを実施しました。

3回目 | 10月28日[金] | 岡崎市民会館

講師にLIFULL HOME'S 総研島原万丈氏を迎え「寛容と幸福の地方論」と題したレクチャーを実施、その後事業プレゼンテーションや「お節介仲人タイム」をしました。

4回目 | 12月19日[月] | りぶら

ワークビジョンズ西村浩氏を講師に迎えたレクチャー「部分から全体へ広がるエリアリノベーション〜佐賀市呉服元町の再生〜」の後に事業プレゼンテーションや「お節介PRタイム」をしました。

5回目 | 1月24日[火]

Camping Office osoto Okazaki

スノーピークビジネスソリューションズ村瀬亮氏による「地域とのかかわりが企業の未来を創る」というレクチャーの後、事業プレゼンテーションや「お節介アクションタイム」をしました。

6回目 | 2月13日[月] | りぶら

事業プレゼンテーションと講評・総評、その後に参加者による座談会がありました。

6回目の最終発表内容

2022年9月から5ヶ月間にわたり実施された事業リノスクにて、まちの課題と自社課題を解決するべく事業プランの構築に取り組んできた参加者17社のうち15社と事業リノスク事務局の運営にも携わる1社の、計16社がプレゼンをおこないました。飲食のコンテンツや働く基盤を整備してまちに人流を生みだすなど、様々な事業が構築されました。

1 | 名鉄都市開発

不動産会社である「名鉄都市開発(株)」。岡崎のまちづくりと一緒に担っていくための名鉄センタービルの活用として、岡崎の人とモノが生み出す「地域のWA(輪)」を発信するQURUWAの道の駅「マチナカStation μ QURU」を構想中。また、「μ QURUポスト」を設置して、東岡崎駅再開発への期待・希望など地域の人からの意見や、外部から来た人のまちに対する意見を集め、人々に寄り添った都市開発をおこなおうとする提案でした。

2 | ミカワテキスタイル

綿織物を主体に生地を設計を行い外注工場で作られている「ミカワテキスタイル(有)」。幡職人の高齢化が進み幡屋が減少している現状を踏まえて、職人が作り出す生地

を日常生活に溶け込むデザインでお届けしたいという思いから、「ミカワ・オリモノ・プロダクツ」をスタートさせました。三河地方で生地や布製品と関わる人々や、デザインを学ぶ大学と一緒に制作に取り組み、レジャーシート、湯たんぽカバー、サウナハットなどを開発予定です。

3 | BOSTON-BAG

不動産業を営む「(株)BOSTON-BAG」。「物件中心のお店作り、から『街』中心のお店作りへ」をテーマに、不動産仲介のあり方を変える「企画のタマゴ」を提案しました。大家・オーナー側の依頼にマッチする入居者・事業者を探す従来のスタイルから、不動産の知識・経験を活かして住民のニーズ調査や、行政課題の聞き取りをおこない、まち・エリアの雰囲気やテーマからプロジェクトを作成し、「こんなお店をここで始めませんか?」と事業者に提案する、という企画です。

4 | 発知商店

JR岡崎駅近くに酒屋を構える「(株)発知商店」。地域の飲食店・ご家庭への酒の配達や、お祭りや神事での酒の提供など、かつて酒屋は日常の担い手でした。しかし酒屋の多くが廃業した現状を打破するため、商品売って終わりではなく、お酒の楽しみ方も含めて

新たな提案をできる持続可能な酒屋を目指した移動販売車の企画を進行中。1杯のお酒とおしゃべりを楽しむフランスの「アペロ文化」のように、街の一角で酒を通して人々が気軽に交流できる場づくりです。

5 | コネクトスポット

「生きづらさのある人」と「まち」をつなぐ福祉サポートを行う「NPO法人コネクトスポット」。アクティブな人だけが楽しむまちではなく、多様な人が生きやすい・安心できるまちにしたいという思いから、「『こんなわたくしでいいのかな?』ポストカード」を作成しました。「どんな自分も、大切にしていんだよ」と自分を認める輪を広げ、お互いのことを認め合うことができる人で溢れたまちづくりを目指す取り組みです。

6 | スノーピークビジネスソリューションズ

(株)スノーピークビジネスソリューションズは、「子どもたちに働く姿を見せられるまち」を実現するために、まちなかで「働く」が表現できる環境づくりに取り組んでいます。「QURUWA『働く』のまちなか実験」として、コワーキングスペース開放、キャンプギア無料貸出、オフサイトミーティングトライアルなどを実施することで、自社事業のサービス認知向上とエリア活性を図ります。また、Snow Peakの質の良い「製品・モ



集合写真



最終発表のようす

ノ」と、質の良い「体験・コト」をユーザーに繰り返し体験してもらうことによって、コミュニティビジネスを実施するという提案でした。

7 | 戸松電気工業所

〔株〕戸松電気工業所は、籠田公園から中央緑道の電気工事の施工をきっかけにQURUWA地区のまちづくりに興味を抱きました。施工を機に関わりを持った中央緑道沿いの喫茶「フロリダ」を事業承継し、まちの「点」を守ってきたいという提案をおこないました。また、岡崎市の森林課題認知向上のために、間伐の切り口であり廃材となってしまう「受け口」を利用した照明器具の作成や、岡崎のメディア・PR動画の製作など、業種の垣根を越えて広くまちづくりに関わる提案でした。

8 | ドゥーラステーションめぐる

産前産後の期間に育児や家事等の日常生活をサポートする「ドゥーラステーションめぐる」。事業リスクの各回で他参加者の「岡崎市のために」という思いにも刺激を受け、女性に寄り添い支える「ドゥーラ」の活動を岡崎市から広めていくため、拠点を設けて法人化する決意表明をされました。ドゥーラの養成や行政との連携も行い、岡崎市の産後ケアの利用促進、子育て支援の質の向上を目指し、ママ・パパが疲れたときに休める場の創出を目指します。

9 | 南康生家守舎

事業リスクの運営にも携わる、一級建築士事務所「studio36」の畑さんは、多様性と寛容さに満たされた「ありうべき都市」の創出に挑む「南康生家守舎」を立ち上げる予定です。チャレンジしやすい状況をつくり地域の熱量を上げること、まちに奥行きをつくることを目的として、中央緑道沿いの物件にて「(仮称)丘ビルプロジェクト」を始動させ、事業リスクに参加した企業をはじめ多様な事業者が丘ビルに出店します。どのような出店を計画しているのか、10 | 稲垣石材店、12 | マルサのところをご覧ください。

10 | 稲垣石材店

〔有〕稲垣石材店は、売上減少や後継ぎ不足により石工業者が20年間で半減した石のまち・石工団地の危機を受け、石と人をつなぐバーを丘ビルに出店します。コミュニケーションをとる場や機会の創出だけでなく、「石

の人」として石と石工の価値や石文化の伝承や、石のまちの再興を図るという計画です。あわせて、石工団地 & 石切場ツアーや石切場イベントを実施し、石切場の後継者や若手石工の発掘にも取り組んでいきます。

11 | 岡田コントロールワーク

地域子育て支援をおこなう〔合〕岡田コントロールワークの託児園 SORRISO。企業とのカリキュラム開発や保育カリキュラム実践の場を提供する「企業連携子育て支援」や、親子で地域の体験プログラムに参加できる「休日プログラム えんてい」を企画・準備しています。また、QURUWAで子育て支援をおこなう団体の多くが拠点を持っていない現状から、託児空間無償貸出「子育てプラットフォーム『ゆりかご』」も実施予定です。様々な側面からママ・パパ・こどもの笑顔のお手伝いをする提案でした。

12 | マルサ

業務用総合食品卸売を営む〔株〕マルサ。新型コロナウイルスなどの外部環境により人流が抑制されると売り上げが大きく減少してしまう卸売業の課題から、街との共生を追求した「ジェラート販売店兼製造所」の開設を提案しました。企業理念である「人と人」、「地域と人」をつなぎ、持続可能な社会づくりに食を通して貢献し、県内の廃棄されてしまう野菜や果物等の活用に取り組みます。丘ビルにて今夏にオープン予定です。

13 | 栄光会

デイサービス、治療院、訪問鍼灸、訪問看護などを展開し、地域の健康寿命を支える事業をおこなう〔株〕栄光会。事業リスクにて関係を築いた〔株〕Q-NEXTと連携し、「QURUWAと暮らし」(2023年3月25日・26日開催予定)にて高齢者がスタッフとして活動し、地域の人々との関わりを持つ機会づくりに取り組む予定です。また、アクティブシニアが輝き活躍できる場をつくるために、高齢者1000人を集めたコミュニティづくりにも挑戦していきます。

14 | 柴田酒造場

奥三河に酒蔵を構える〔合〕柴田酒造場。土蔵を改修したカフェを2020年にオープンして以来、継続的な集客に挑んでいます。事業リスク期間中に、同参加者のOkazaki Micro Hotel ANGLEにて熱帯を嗜むイベントを試験的に実施。参加者の方からの評判も

よかったことから、今後もQURUWA内での認知向上、地域のファンを増やすために季節に応じてイベントをおこなう予定です。まちの人に酒蔵のある山エリアにも来ていただくことによって楽しむ場所の選択肢を増やし、QOL向上への寄与も目指します。

15 | phoneme

アパレルや飲食など幅広く事業展開を進めてきた〔株〕phoneme。「カルチャーがある街、ネクストレベル”KOSEI”」をテーマに掲げ、サイレントクラブ・サイレントシネマ、完全会員制パフェバーを始める提案をおこないました。また、多義的な文化の創造の一步目として、「籠田Neo盆踊り」を地域と連携して今夏に実施予定です。康生町をもっと“おもしろく”するために、数々の挑戦が続きます。

16 | Okazaki Micro Hotel ANGLE

籠田公園南側で宿業を営む「Okazaki Micro Hotel ANGLE」。岡崎の豊かさやおもしろさを届けたい層に届けられていない現状に課題を感じ、岡崎について知ってもらえる接点となる「誰かの視点をきっかけに、岡崎のまちに入り込むメディア「シテン...」」開設の提案がありました。街の入口としての機能だけでなく、若者が関わるきっかけづくりや、街の仕事を守る役割も果たしていきます。

座談会

事業リスク最終発表後、事業リスク参加者、ゲスト、事務局で座談会を実施しました。テーマは「ウォーカブルなまち」×「近未来な暮らし方/働き方/遊び方」。

「居心地がよく歩きたくなるまちなか＝ウォーカブルなまち」の実現のために、参加者のみなさんが実践している・実践したいコンテンツについて意見交流をしました。

まず口火を切ったOkazaki Micro Hotel ANGLEの飯田さんは、ホテル前の公道1mを借りて、植栽やイベント時の檜(やぐら)設置などに空間を利用している事例について共有しました。公道を利用することで、ホテルや1階カフェの雰囲気外からみた人に伝わりやすく、お店に入りやすくなるのではないかと思います。始めたことが、結果的にウォーカブルなまちの実現につながっているのではないかと感じているそうです。宿の魅力の一部ともなり、街

の風景ともなるこの取り組みを、継続しておこなっていきたくて語りました。

スノーピークビジネスソリューションズの米村さんは、ウォーカブルには、「物理的な「歩きやすい」と、心理的な「歩きたくなる」の2つの側面があり、私たちが担っていくのは、心理的な面であると話しました。

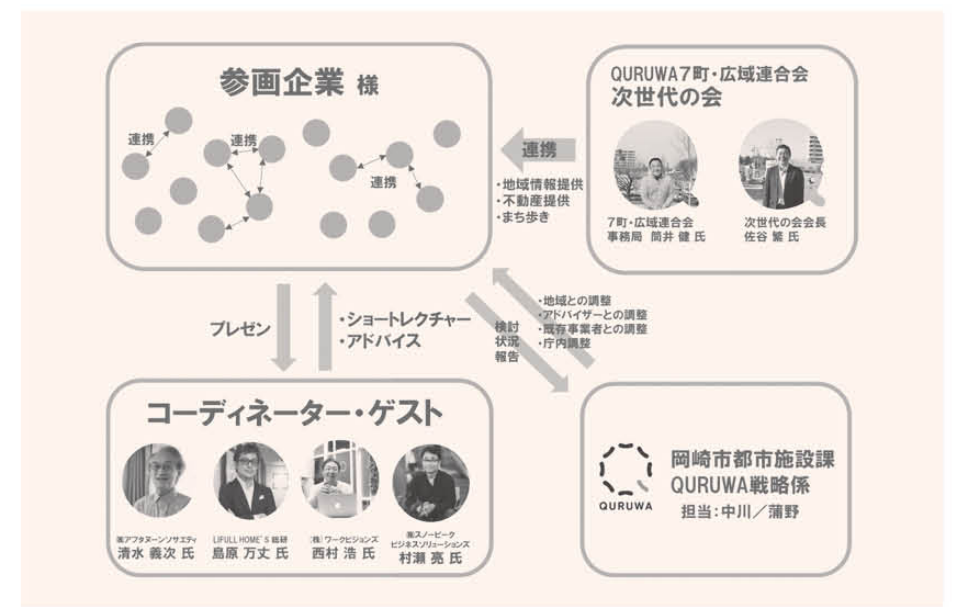
ポートランド(アメリカ合衆国オレゴン州)には、フードカートやコミュニティーガーデンなど、街を歩きたくなる仕掛けがたくさんあるそうで、スノーピークビジネスソリューションズも、オフィス横にコミュニティーガーデンを設置し、まちなかの都市菜園を楽しんだり、まちを歩きながら収穫物を食べたりすることができるよう取り組んでいます。一方で、行く先々で働いている方々の生業を体験できるようなコンテンツがQURUWAに点在したら、まちに来る人がまちの人と直接触れ合え、もっと面白くなるのではないかと提案をしました。

また、ドゥーラステーションめぐるの松本さんは、ウォーカブルなまちの実現は、車がなくても子育てができるまちの実現にもつながるのではないかと感じているそうです。まちのコンテンツが多くなればなるほど、子育てのお手伝いをしてくれる人の増加や、出かける目的をまちの中で全部果たすことができる便利さにつながるため、車がなくても子育てができるまちの実現を信じて、岡崎のまちづくりに関わっていきたくて話しました。

名鉄都市開発の矢野さんは、誰かと一緒にあれば、時間を問わずお店に行ったりまちを歩いたりすることができるが、1人だと女性にとってはとてもハードルが高い現状について共有しました。「ここに行ったら知り合いがいる」、「街の人と関わりを持って飲むことがで



座談会のようす



体制図

きる」ような場所が用意されていると、まちに関わりを持っていきたくて思える人が増えるのではないかと感じ、そういった環境づくりを事業者と進めていけたらと岡崎の将来像を語りました。

参加者の声・今後の可能性

普段なら出会うことのない企業が、業種の垣根を越えてつながる・協業することができるのが、事業リスクの特徴であり利点だと言えるでしょう。

他参加者の熱量や思いに触れ、事業リスク期間中に自社事業のリノベーションを遂行するだけでなく、法人設立を決断した事業者の方もいっしょだったほど、多くのイノベーションが生まれました。

参加者の多くから、「業種が違えども、事業や地域の課題に参加者同士共感することが多く、士気が高まり、世代や事業年数を越えて刺激し合うことができた」と、声を寄せていただき



まち歩きの様子



レクチャーの様子

ました。また、心理面や思考の変化として、「一事業者としてお店を良くしていくだけでなく、まちをも良くしていくために活動しようという前向きなメンタリティを持つことができ、次への活動意欲にも繋がった」と、実感されている声も多く挙がりました。

QURUWA地区は商業地域として年々人気が高まっているため、事業を始める方やコンテンツで溢れ、「どのような人が」、「どのような思いで」、「どのようなことに取り組んでいるのか」が可視化されづらい現状があります。そんななか、事業者同士が密に交流することができる事業リスクを通すことによって、まち(QURUWA)と事業者がお互いに理解し合いながら、まち全体の発展を実現することができるでしょう。

レポート

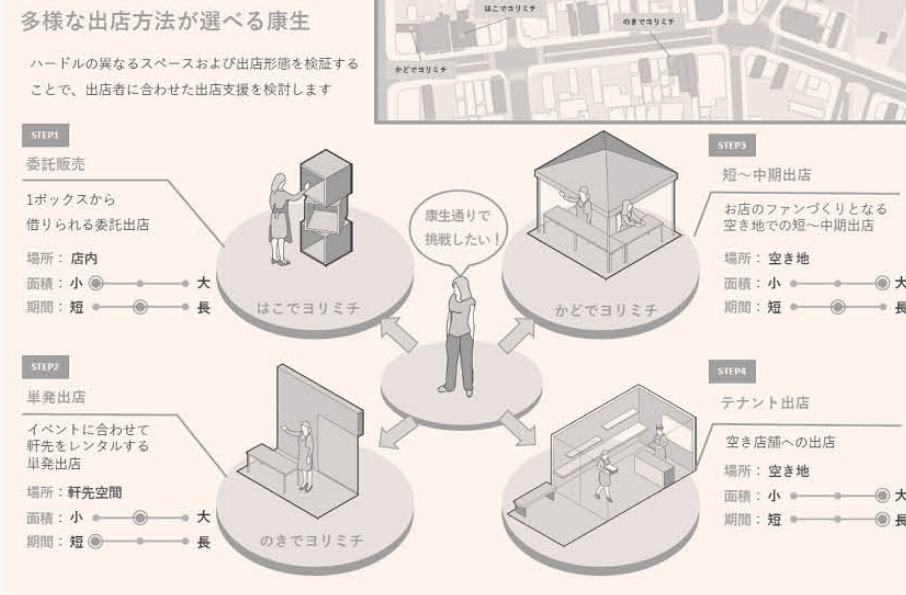


QRUWAプロジェクト-7 ヨリミチ×コミチ PROJECT

康生通りを会場に、まちなかの歩道空間などを活用した「出店促進」と「回遊促進」の取り組み、持続的な賑わいを生み出すことを目的とした「公共空間の活用」に関する社会実験「ヨリミチ×コミチ PROJECT」が開催されました。

日付：2022年10月29日[土]～11月27日[日]
時間：10:00～16:00
会場：康生通り周辺
主催：日本工営・まちづくり岡崎・岡崎市
協力：名古屋工業大学伊藤孝紀研究室
支援：一般財団法人地域総合整備財団（ふるさと財団）

取り組みでは、エリア内に呼び込んだ人を商業地のポテンシャルを生かしながらいかに「回遊」に結び付けるか、またそれを継続的に続けていくために康生通りにどのような「役割」を持たせるかを想定し、康生通りの「活用プラン」を策定しました。



多様な出店方法

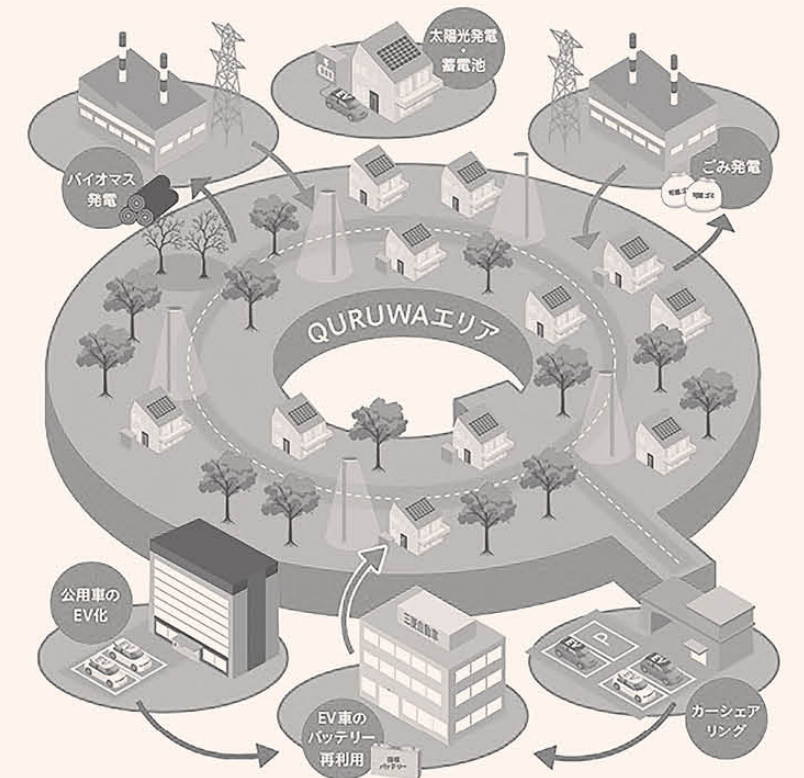
- ① 隣接する集客拠点「籠田公園」と康生通りに連続性を持たせ、来場客を通りに引き込む
 - ② 引き込んだ来場客を「商業地」の特性を生かしたコンテンツで散策させる
- 取組み1**：景観統一や滞留スポット設置による「通りへの誘引」の仕掛けづくり

取組み2：多様な出店誘致とサポートによる「商業コンテンツ」の充実

この2つのアプローチから拠点同士を効果的に結び付け「回遊」を生み出す仕掛けを、籠田公園へ来たついでに康生通りへの寄り道を促進させる公共空間の活用プラン「ヨリミチ×コミチ PROJECT」としてまとめました。

関連プロジェクト どうする脱炭素？ 岡崎城下からはじまる、 省エネ・創エネ・蓄エネ・調エネの まちづくり

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、全国に先駆け、地域特性に応じた脱炭素の実現に取り組む地域である「脱炭素先行地域」にQRUWA地区が選ばれました。町内会の加入率が非常に高いという地域特性を活かし、中心市街地である「QRUWA地区」において、町内会活動を核として太陽光発電・蓄電池を最大限導入するとともに、新設の木質バイオマス発電や既存のごみ発電を活用して、脱炭素化を実現していきます。公用車のEV化やカーシェアリングを進め、EV製造事業者である三菱自動車と連携してEV車から回収されるバッテリーを定置型蓄電池として住宅や防犯灯などに再利用するなど、資源の有効活用とサプライチェーン全体の環境負荷低減により、産業構造の転換を図ります。



脱炭素化イメージ図

- ③ 岡崎さくら電力では、事業収益の一部を地域貢献事業に活用
- ④ 三菱自動車と連携し、オフサイトPPAによる太陽光発電(約1,000kW程度)からの再エネ供給と、EV車から回収されるバッテリーを定置型蓄電池として住宅や防犯灯などへ再利用

2 | 民生部門電力以外の脱炭素化に関する 主な取組

- ① 公用車(71台)をEV・PHEV・FCVに順次更新し、休日はカーシェアリングとして市民や観光客に貸し出すほか、事業者にはEV・充電設備の導入支援を行い、ゼロカーボンドライブの実現に繋がります
- ② 中心市街地エリアにグリーンスローモビリティ(10台)を導入することで渋滞緩和を図るとともに、ウォークアブルなまちづくりを実現します

概要版



計画提案書



1 | 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 戸建住宅やオフィスビルなどに、太陽光発電(1,462kW)・蓄電池を最大限導入し、自家消費を推進
- ② エリア外に大規模太陽光発電(4,118kW)・大型蓄電池、木質バイオマス発電(1,990kW)を新たに導入し、地域新電力「岡崎さくら電力」を介して再エネ電力を供給

まちなか再生支援事業 活用プラン(仮)

2022.09.08 伊藤孝紀研究室

ヨリミチ×コミチプロジェクト

街なかに様々な仕掛けを設定することで通りの散策を促し、近隣拠点との連携で生まれる流入と回遊の可能性を検討します。



2022 将来ビジョンに向けたアクションプランを作成

康生通りの将来像 | 今と昔が協奏し、次の500年を生きる商いの街



QURUWAシンポジウム QURUWAの 近未来を考える 東岡崎駅エリア編

日時：2022年10月5日[水]18:00-20:00
会場：岡崎市役所福祉会館6Fホール
主催：岡崎市
参加者：108名

パネリスト

藤村龍至 | Ryuji Fujimura
建築家/東京藝術大学美術学部建築科准教授/RFA 主宰
清水義次 | Yoshitsugu Shimizu
建築・都市・地域再生プロデューサー/
株式会社アフタヌーンノサティ代表取締役/
一般社団法人公民連携事業機構代表理事/
株式会社リバリング代表取締役
松本大地 | Daiji Matsumoto
株式会社高い創造研究所代表取締役

2022年10月5日、岡崎市役所福祉会館6Fホールにて、QURUWAシンポジウムが開催され、地元住民をはじめ、事業者、行政関係者等、総勢108名が参加しました。今回のシンポジウムでは、高い創造研究所の松本大地氏を迎え、東岡崎駅と周辺地区の持つポテンシャルについて基調講演いただき、QURUWA戦略のアドバイザーである清水義次氏、藤村龍至氏を交え、今後の駅と周辺地区のまちづくりの方向性について、パネルディスカッションをおこないました。

1 | 東岡崎駅エリアの地域特性

まず岡崎市拠点整備課より今回のテーマとなる東岡崎駅エリアについて以下の情報共有をおこないました。

- 大部分は商業地域で容積率600%、建ぺい率80%。
- 土地利用状況は住・商混在、階高は中低層

- 多くそれほど高度利用はされていない。
- 人口減少・少子高齢化が進み、地域自治の担い手不足が深刻。単身者向け集合住宅が多く、地域活動と無縁な層が多い。
- 以前は地権者＝事業者だったが、現在は地権者＝不動産業が主流。テナント事業者との関係も希薄に。
- 20数年後に人口が半減するという人口推計もあり、このままでは地域活動を維持することが困難になることが危惧されている。

2 | 高い創造研究所 松本大地氏基調講演 東岡崎駅と 駅周辺のポテンシャル

次に、商業施設のマーケティング&プロデュースの専門家、高い創造研究所松本大地氏に、駅周辺の可能性についての講演をいただきました。テーマに分け、ポイントを抽出しました。

消費者ニーズ：「物」から「心」の豊かさへ

- バブル期を境に消費者のニーズは「物の豊かさ」から「心の豊かさ」にシフト。コロナ禍を経て、心の豊かさを求め、地域生活を大切にする傾向がさらに強まった。
- 「商店街」は日常の居場所として、「まちなかのリビングルーム」のような心地よい空間が、「商業施設」は買い物だけではなく、より良い時間を過ごせる施設が人気となっている。

ポर्टランドの「ローカルファースト」

- なぜ、ポर्टランドでは定住人口、交流人口が伸び、持続可能な経済成長をしているのか？それは多様性を尊重した「社会交流」が盛んで、まちなかが心地よい「リビングルーム」となっているから。
- キーワードは「ローカルファースト」。地域内の経済循環とコミュニティづくりを重視し、地元資本のお店が出店することにより結果地域住民だけでなく観光客にも人気になっている。

ローカルファーストを取り入れたキーノ和歌山

- JR和歌山駅から2km強離れた南海電鉄・和歌山市駅の周辺では、高島屋撤退後空洞化が進む。
- 駅ビルの各店舗として図書館を移転し、カルチャ・コンビニエンス・クラブ(CCC)に運営を委託。商業施設との「ミクスユース」(共

- 鳴しあうような要素をうまく組み合わせる)を工夫し、観光客と地元双方の需要を満たし、乗降客だけでなく、駅ビル自体が目的地に、かつ駅周辺の回遊拠点になった。
- 中心地に5つの大学を誘致し、2,000人の学生が駅周辺に集まるように。公共施設再編も推進。
- 転出超過だった子育て世帯は転入超過に。

岡崎市のマーケット分析

- 市内の大型店舗は58。半数がスーパーマーケット。
- 家計調査では市全体で2,098億円のマーケット、うち東岡崎駅5km圏で1,565億円と集中している。
- 坪販売効率が県平均より低く、商業規模に過剰感。
- 駅周辺に公園が多くアクセス性も高いのは強み。
- 駅1km圏内では、若いファミリー層が増えている。
- 駅ビルは一般的な商業施設では集客性に欠けるため、名鉄と公共施設の相乗効果が狙える施設計画づくりがカギ。

東岡崎駅エリア整備のキーポイント

- 持続可能なまちづくりのため、子育て世代を呼び込む心地よいまちの居場所と子育て環境づくり。
- 岡崎ならではのローカルコンテンツ(地元の食材・発酵食品のフードツーリズムなど)
- 地域全体最適を生むまちづくりのデベロPPER

3 | パネルディスカッション 東岡崎駅2期整備をきっかけに 周辺のまちの近未来を考える

最後に、松本氏とともに、QURUWAアドバイザーである清水義次氏、藤村龍至氏を交え、駅周辺の近未来について議論していただきました。それぞれの発言を抜粋してお届けします。

藤村 | 東岡崎駅に1,300万人/年が乗降しているという状況をいかにまちなかに波及させていくか。まちなかの取り組みの成果は上がっているものの、本丸としての駅前の課題が最も難しいです。お客さんは最も集まるがその分調整も難しい。それをどう乗り越え、QURUWAのこの7年間の成果をどうつなげるべきでしょうか。

東岡崎駅エリアのポテンシャル

清水 | 駅のすぐ近くに川が流れており、その先に中央緑道、籠田公園につながる動線があることは貴重です。
松本 | 道や公園なども使ってまちのリビングルームをつくるという点で岡崎には高いポテンシャルがあります。

車社会からウォークアブルなまちづくりへ

清水 | 自家用車だけでなくバスや電車なども含め、まちの中心部にアクセスしやすいことが大事。これからはまちなかに大規模な駐車場が何か所かあって、そこに車を停めて歩いて楽しめるというまちが評価されるでしょう。
松本 | 日経新聞の記事によると、全国で一番駐車場の料金が安いのが愛知県。駐車場の数が多すぎて競争が激化して安くなっているそうです。岡崎市の駐車場料金は愛知県のさらに半分。それくらい車に依存しています。私もこれからは車を停めて歩いてまちを楽しむ「パークアンドウォーク」がよいと思います。

現在の歓楽街から子育てしやすいまちに変わる?

清水 | 現在のまちの姿で本当によいと思えますか。もしもっと良いまちにしたいという気持ちがあれば、まちは変わります。北九州市小倉では、一番廃れたエリアにリノベーションした点をいくつかつづけたため、3年目くらいから明らかにまちの客層が変わりました。
松本 | まちに場外馬券場や風俗の無料案内所ができる危険信号です。今、駅前に無料案内所ができています。そうすると段々そういう店が増えていきやすいのですが、逆に子育て層に人気の場所、若い人が集まる場所ができると、その客層にあった業態が必ず出てきます。

ローカル事業者は再開発ビルの高い賃料に耐えられる?

松本 | 2、3店舗経営しているようなローカルな事業者は財務体質がとてよく、和歌山市駅に直結する商業施設キーノ和歌山ではそうした店舗に入ってもらいました。それなりの賃料にも十分対応してもらっています。単なるリーシングではダメで、「こういうまちにするために一緒に育っていく」という気持ちに添えてくれる事業者でなければいけません。
清水 | テナントリーシング専門の業者もいますが、そうしたところに丸投げするのではなく、行政も一緒になってローカルな事業者を探していくと効果的です。



松本大地氏



岡崎市からの情報共有

商業以外にどのような機能があるとよいか

清水 | これからは、長い時間を過ごしているオフィスのあり方がもっと重要になります。ガラスで区切られた閉鎖的な空間ではなく、キャンピングオフィスのようにオープンな街路空間で創造的に働ける場所が増えると、まちの価値が変わっていきます。
松本 | 住まいやオフィス、商業や公園などさまざまな用途がうまく混在したミクスユースが重要です。

総括

清水 | 駅と周辺が変わるとまちのイメージが変わります。これからどのようなまちにしたいのかを皆さん自身でよく考えて、それを実現していくことが大事です。
松本 | 今まで交通のためだけに使っていた駅が、わざわざ行きたくなる、楽しく交流できる、子育てしやすい場所になると、そうした客層にあう業態がまちに表れます。そうした「朱に交われば赤くなる」状態をうまくつくとよいですね。
藤村 | QURUWA戦略7年間の集大成を駅前でどう展開していくのか、というところによりよ入っていくのだと感じました。「まちは変わっていく」ということをみなさんと共有しながら新しい未来を目指すべきですね。



パネルディスカッション | 右より清水氏、松本氏、藤村氏

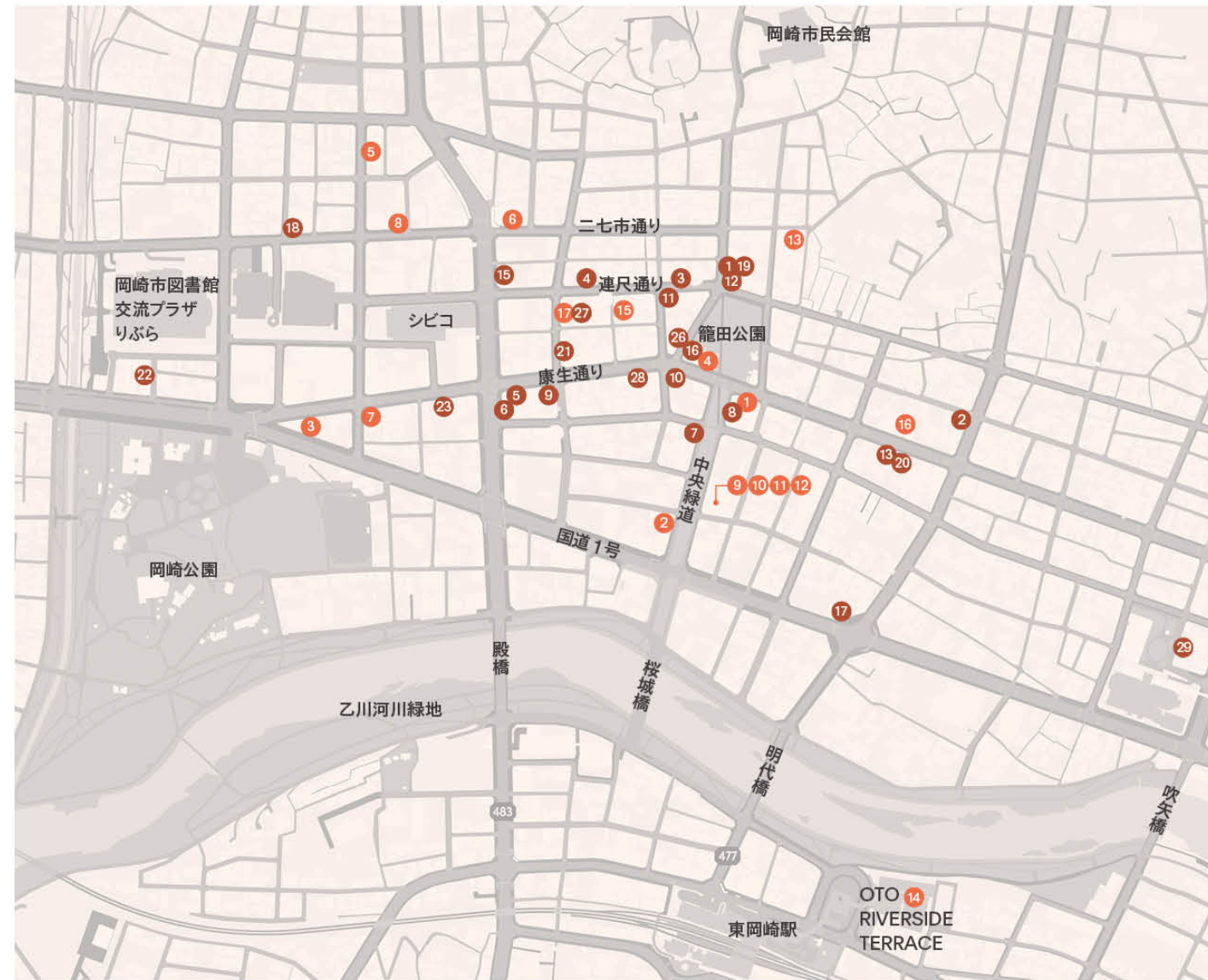


会場の様子

関連プロジェクト

QURUWA 出店情報

QURUWAではさまざまな店舗が新しくオープンしたり、移転したりしています。2022年度(2022年4月から2023年3月)には、以下のお店が新たにQURUWAの日常をつくっています。



2022年

- 1 ÁTER | カフェ
- 2 611 | 古着屋
- 3 café yomoyama | カフェ
- 4 coffee to ____ | コーヒースタンド
- 5 髪切虫 | カット専門店
- 6 esoteric | カフェ兼セレクトショップ
- 7 MOMOTARO | 餃子&飲み屋
- 8 greenshop G-REX | 植物店
- 9 NEKKO OKAZAKI | 複合施設
- 10 NONOJI | パン
- 11 Hasta mañana | クラフトビールボトルショップ
- 12 HATSUMEIDO | 工作教室
- 13 27café | カフェ
- 14 スペシャライズド岡崎 | スポーツサイクルショップ

- 15 旨いもの処かびちゃん | 居酒屋
 - 16 LITTLE PERCENT | 古着屋
 - 17 咖喱永(カリート) | カレー
- 2019-2021年
- 1 シバタ食堂 | カレー、エキモ内で営業
 - 2 コネクトスポット | NPO法人(障害福祉事業)
 - 3 みんなのおうち連尺 | 託児所
 - 4 タックメイトセンガ(DM710) | コンビニエンスストア/セレクトショップ
 - 5 和カフェ あずきあん | カフェ
 - 6 さくらこ | コミュニティスペース&弁当販売
 - 7 野菜日和 | 有機野菜をメインにしたカフェ
 - 8 グレイトフルズ | ハンバーガー
 - 9 502 | 美容室
 - 10 OKAZAKI Micro Hotel ANGLE | ホテル
 - 11 ie | 美容室
 - 12 New Stand WOW | パナジュース専門店
 - 13 茶楽音 | 喫茶店

- 14 Quiet Village | ハンバーガー
- 15 弁才天 | フルーツ大福
- 16 ティースタンドロブ | ドリンク&スイーツのテイクアウト専門店
- 17 ホテルリブマックス岡崎 | ホテル
- 18 洋菓子店 LIFE | ケーキ
- 19 小料理屋 ecumer (エキユム) | クラフトビール専門店期間限定出店
- 20 古今 | 焼屋
- 21 NUR HARI SPOT | 鍼灸院
- 22 敵選屋 | ホットドッグ他
- 23 スパイスカレーがいらず | カレー
- 24 アユミベーカリー | パン
- 25 BIOVERT COFFEE | コーヒー、カレー
- 26 Ten Cycle | 古着屋
- 27 シバタ食堂 | カレー、BIOVERT COFFEE内で営業
- 28 RushOut | 杉浦メカネ機のお茶屋
- 29 MIRAI RAMEN | ラーメン

○ — 開店

会議

2022年度 乙川リバーフロント地区まちづくり デザイン会議

デザイン会議とは、QURUWAプロジェクトへの提案・助言・評価とともに、公民連携と都市デザインのクオリティコントロールをおこなうため、まちづくり専門家と主要まちづくり4部局等から構成された戦略会議体のことです。

●メンバー

- [乙川リバーフロント地区まちづくりデザインアドバイザー]
- 清水義次 | 株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役
- 藤村龍至 | 東京藝術大学准教授
- 西村浩 | 株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役
- 伊藤孝紀 | 名古屋工業大学大学院准教授
- 長谷川浩己 | 有限会社オンサイト計画設計事務所
- [民間事業者]
- [岡崎市職員]
- [QURUWA 7町・広域連合会関係者]

●第1回

日時: 2022年8月1日[月] 11:00-16:00
場所: 岡崎市役所西庁舎 7階 701会議室

- 議題1: 民間/行政の現状共有
 - (1) 昨年度の振り返り
 - (2) 今年度の主な取り組みについて
- 議題2
 - (1) QURUWA戦略の更新
 - (2) 10年後のQURUWAのライフスタイルについて
 - (3) 7町広域連合会次世代の会の課題

●第2回

日時: 2022年10月18日[火] 13:30-16:00
場所: 岡崎市役所西庁舎 7階 701会議室

- 議題1: 情報提供 | 最近のQURUWAのトピック
 - (1) 事業リノベーションスクール【都市施設課】
 - (2) 地域と一緒に作る景観まちづくりのウォークスルーアンケート中間報告/次世代の会分科会組成【まちづくりデザイン課】
 - (3) ヨリミチ×コミチ PROJECT【まちづくり岡崎】
 - (4) QURUWA 夏祭り2022【次世代の会】
- 議題2: 東岡崎駅エリアビジョン更新に向けての課題解決—東岡崎駅2期整備と、にぎわい広場—
 - (1) 東岡崎駅エリアの現状と今後(市からの情報提供)
 - (2) 松本大地様提案

[東岡崎駅と駅周辺のポテンシャル]

(3) 議論 | 東岡崎駅エリアビジョン更新に向けての課題解決

●第3回

日時: 2022年12月20日[火] 13:30-15:00
場所: 岡崎市役所西庁舎 7階 701会議室

- 議題1: 情報提供「東岡崎駅エリアビジョン更新」[拠点ビジョン(新規)]に関連するトピック
 - (1) 10/5シンポジウム【都市施設課】
 - (2) 10/18デザイン会議【まちづくりデザイン課】
 - (3) 12/12景観デザインレビュー【都市施設課/まちづくりデザイン課】
- また、東岡崎駅エリアの地域住民や事業者らで構成される(仮称)ひがおか連合の設立に向けた準備会についての情報提供がなされた。
- 議題2: 東岡崎駅エリアビジョンの更新について
 - (1) 東岡崎駅エリアビジョンの更新案について
 - (2) 拠点ビジョン「東岡崎駅(新規)」について

●第4回

日時: 2023年2月14日[火] 13:30-16:30
場所: 岡崎市役所西庁舎 7階 701会議室

- 議題: QURUWAプロジェクト「乙川かわまちづくり」のレビューを題材とした公民連携プロセスの在り方についての議論
 - (1) 振り返り「乙川かわまちづくりの公民連携プロセス」【都市施設課】
 - ・ハード整備期～社会実験期間～
 - 指定管理者制度に至るまでの出来事
 - ・川まちづくりの推移 (プログラムの実施日数/実施期間/総来場者数)
 - ・わかったこと、できたこと、やりたかったけどできなかったこと
- 等について、資料に基づき事務局より説明が行われた。
- (2) 議論 ~今後のQURUWAプロジェクトへ活かす~
 - ・エリアをプロデュース&マネジメントする体制について



PROJECT TIMELINE

プロジェクトのタイムライン

2013

- 岡崎活性化本部による乙川リバーフロント地区基本方針策定のための提言書発表
- 岡崎市による乙川リバーフロント地区整備基本方針策定

平成26年度

- 乙川リバーフロント地区整備基本計画策定

2015

平成27年度

- おとがわプロジェクト 発足
*おとがわプロジェクトとは...乙川リバーフロント地区整備計画の別称
- キックオフフォーラム開催
- QURUWAシンポジウム
- デザインシャレット実施【パブリックミーティング2E】
- シャレット展示会開催
- おとがわキャラバン in 市役所開催
- おとがわキャラバン in 籠田開催
- 中間提言発表
- まちづくりワークショップ開催
- おとがわキャラバン in りぶら開催
- おとがわキャラバン in 中央緑道開催
- グランドデザインフォーラム開催・「基本構想」[市民提案]
- グランドデザイン展示会開催
- 岡崎泰平の祈り
- 第一回リノベーションスクール

平成28年度

- 基本構想[市民提案]に対する市の対応方針
- おとがわワンダーランド
- デザイン会議スタート
- QURUWA FUTURE VISION
- QURUWAパブリックミーティング
- まちのトレジャーハンティング@岡崎
- まちなか未来戦略フォーラム
- 岡崎泰平の祈り
- 第二回リノベーションスクール

平成29年度

- おとがわワンダーランド
- QURUWA FUTURE VISION
- 公共空間活用の担い手育成ワークショップ
- 乙川リバーフロントフォーラム
- 社会実験「MeguruQuruwa」
- 乙川リバーフロント地区
- 公民連携まちづくり基本計画【=QURUWA戦略】とりまとめ
- 第三回リノベーションスクール

2018

平成30年度

- おとがわワンダーランド
- 乙川リバーフロント QURUWA シンポジウム
- 連尺通り[生活社会実験]
- 康生通り「グッとくるわ社会実験」
- 橋の名称と通りの愛称決定

平成31/令和元年度

- おとがわワンダーランド
- 籠田公園リニューアルオープン
- 連尺通り「生活社会実験2019」
- 康生通り「グッとくるわ康生社会実験」
- 東岡崎駅ベデストリアンデッキ通行開始
- OTO RIVERSIDE TERRACE グランドオープン
- QURUWAライフハック
- QURUWAシンポジウム
- 桜城橋供用開始
- 乙川河川緑地整備完了
- クリエイティブ人材支援業務「INC」

2020

令和2年度

- [QURUWAプロジェクト4]
- おとがわワンダーランド
- [QURUWAプロジェクト7]
- QURUWAストリートテラス
(康生通り・連尺通り・ニセ市通り・市民会館通り)
- [QURUWAプロジェクト2]

おとがわびより

- [QURUWAプロジェクト4]
- 岡崎泰平の祈り
- [QURUWAプロジェクト7]
- グッとくるわ康生2020社会実験
- QURUWAシンポジウム
- 7町・広域連合会の発足
- [QURUWAプロジェクト5]
- 中央緑道供用開始
- 社会実験「#QURUWAと暮らす」

令和3年度

- QURUWAストリートテラス
- 乙川@殿橋下流左岸の指定管理開始
- 7町・広域連合会次世代の会発足
- オトマルシェ@オトリバーサイドテラスがスタート
- 丘の途中のマーケット
- 東岡崎駅2期整備の協定締結
- QURUWAブランディング & 情報発信
- QURUWAシンポジウム
- QURUWAと暮らす2021
- 康生通り将来ビジョン策定

2022

令和4年度

- [QURUWAプロジェクト5]
- 籠田公園(及び地下駐車場)指定管理開始

[QURUWAプロジェクト5]

- NEKKO OKAZAKI オープン
- QURUWA夏祭り2022
- 高校生まちづくりプロジェクト
- QURUWAシンポジウム
QURUWAの近未来を考える
——東岡崎駅エリア編

[QURUWAプロジェクト7]

- ヨリミチコミチ PROJECT
- まちづくり会社
- 「株式会社Q-NEXT」設立
- QURUWA地区が
脱炭素先行地域に選定

2023

- [QURUWAプロジェクト4]
- おとがわエリアビジョン更新
- 次世代の会
- QURUWAアワード2022

BACK NUMBER

Vol.1

キックオフフォーラム
シンポジウム
デザインシャレット
中間提言書 [収録]

Vol.2

キックオフフォーラム
シンポジウム
デザインシャレット
中間提言書 [収録]

Vol.3

おとがわプロジェクトの
全体像
グランドデザインフォーラム
市民インタビュー [収録]

Vol.4

おとがわプロジェクトの全体像 | リノベーションまちづくり | かままちづくり | 基本設計ワークショップ | シンポジウム | まちのトレジャーハンティング | フォーラム | パブリックミーティング | 3つの会議 [収録]

Vol.5

[特集]
QURUWA戦略
乙川リバーフロント地区の
まちづくり3年目の取り組み [収録]

Vol.6

[特集]
暮らしを豊かにするまちの使い方は
乙川リバーフロント地区の
まちづくり4年目の取り組み [収録]

Vol.7

[特集]
進むQURUWAプロジェクト
乙川リバーフロント地区の
まちづくり5年目の取り組み [収録]

Vol.8

[特集]
公から民へのソフトチェンジ
乙川リバーフロント地区の
まちづくり6年目の取り組み [収録]

Vol.9

[特集]
ブランディング & 情報発信、始動
乙川リバーフロント地区の
まちづくり7年目の取り組み [収録]



CREDIT

発行元 岡崎市
発行日 2024年3月
企画・編集 株式会社都市機能計画室
デザイン neucitora

問い合わせ先:
岡崎市まちづくり推進課
QURUWA戦略係
tel: 0564-23-7421
mail: quruwa@city.okazaki.lg.jp
web: https://quruwa.jp



LINE@
instagram